

植物多様性センターの「ノアザミ」

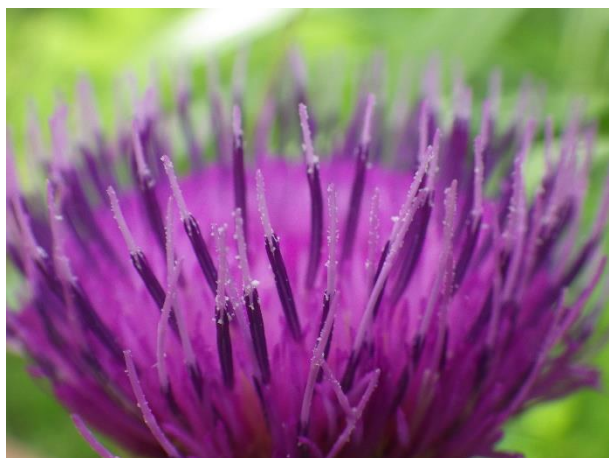
武蔵野ゾーンの高茎草地エリアでノアザミが咲いています。春から初夏にかけて咲く代表的なアザミで、古くから歌や絵の題材とされてきました。花は先に雄ずいが成熟(雄性期)して、花粉を全部出し切った後に雌ずいが成熟(雌性期)することで自家受粉を防ぐ仕組みになっています。よく見かける植物でも、よく観察するととても巧みな戦術を持って生きていることに驚かされます。



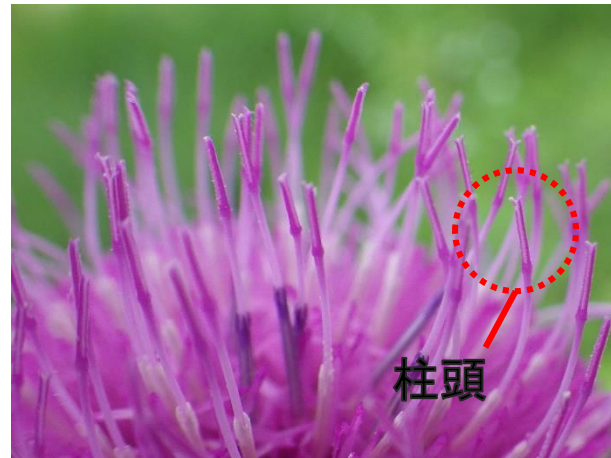
葉に鋭いトゲがあり、うっかり触れると痛い。



総苞: 粘着性があり、虫がついてしまうことも。



雄性期: 虫が乗るなどの刺激で花粉が出る。



雌性期: 雌ずいの柱頭が2裂すると、受粉の準備が整う。